

会議録

件名	隅田小学校と恋野小学校の再編統合に関する説明会(恋野地区)
日時	令和8年2月14日(土)午前9時30分から午前11時15分まで
場所	恋野地区集会所 恋し野会館
参加者	参加者 17名 平木市長、今田教育長、岡教育部長、阪口参事、 家田学校再編推進室長、中林補佐、東主任、東川主任

市長挨拶、資料説明の後、質疑応答、意見交換になりました。

本説明で出された意見等は、以下のとおりです。

1-1. 今後の進め方で、再編準備委員会で話し合われる内容について、協議事項として、新しい学校の校名、校歌、校章など書いています。隅田小学校の方が新しい校名にするとか、そういうのに反対された場合、隅田小学校のままでいくということはありませんか。

(教育委員会)

今回、再編統合と表現しているのは、学校の規模の大小はあるんですけども、吸収合併ではなくて、隅田小学校と恋野小学校、それぞれに伝統、今まで引き継いできたものがありますので、対等の立場で合併していくという意味から再編統合と表現しています。

新しい学校名につきましては、それぞれの準備委員会でご協議いただきます。そこで、どのようなまとまり方になるのかということにもなると思うんですけども、合同の準備委員会も開催させていただく中で、新しい学校名をどのように決定していくのか、決定方法も含めて議論していただく形になります。最終的にどのような案が出てくるのかは、現状の学校名という案が出てくる可能性もありますし、全く新しい学校名が出てくる場合もあるということで、現時点ではどのような形というのは、これから協議ですのでわからない部分もあるんですが、意見の調整も図りながら決定していきたいと考えております。

協議の結果、隅田小学校のままの話もあるかもしれませんが、大前提として、新しい学校としてスタートしていくためにどういう学校名にしていくのかということから協議を進めたいと考えています。

(市長)

校名などについては、いろんな決め方があると思うので、これは区長からも吸収合併とは違うということを知っています。本当に話し合いというところを重視させてもらって、うまく統合が進むように、再編準備委員会でいろいろ議論していただけたらと思います。

恋野の自転車は、ずっと私のところへ激励会を開いたときに来てくれて、子供たちの頑張ってる姿も見えています。そういう学校の良さ、特徴をいかにその中で残していく方法を考えていく必要があると思っています。再編準備委員会の皆さんでよく議論をしていただいて、決定していくという

ふうに、再編準備委員会のメンバーになった人は大変かもしれませんが、意見はお互いに出し合ってもらって、最後全体の合同会議で調整をしていただくことが大事になりますので、今、隅田に決まるとか、そういうことではなくて、この2年間のうちにしっかり議論をしていただけたらと思います。

1-2. 新しい学校づくり推進計画に、新しい学校に向けての目標とか、学校施設機能強化の方向性とかが書かれています。これを見ると、どうしても隅田小学校でこれが実現するようには思えません。令和10年から新しい学校になるときに、どれぐらい現実的なものなのか。新しい学校にするときに、隅田小学校を改装したりして、こういうふうにしていくということですか。

(教育委員会)

新しい学校づくり推進計画についてですが、本日は再編統合を中心にご説明させていただいていますが、再編統合については、新しい学校づくり推進計画の中に盛り込んでいます。これは今後10年間で子供たちにとってより良い学習環境を構築していく計画になっています。計画の一つとして、子供たちが多様な考えに触れられるようにということで再編統合も進めています。この計画では、再編統合する学校、しない学校も含め、市内の全小中学校で進めていく計画になっています。

ご質問のありました、隅田小学校でこれらのことができるのかというご質問ですが、資料の2ページで言いますと、大規模な改修につきましては、その時期に合わせていくものも出てくるんですけども、再編統合によって新しい学校ができるところについては、内容にもよるんですけども、優先的にできるように考えています。例えば、地域との共創空間につきましても、学校の空き教室とか、今の利用状況も確認しながら設置に向けて進めていきたいと考えています。また、多様な学習形態、ICTの活用につながる教室の整備ですとか、学校図書館、図書コーナーの充実、こういったところも、新しい学校の開校に向けて整備を図っていきたいと考えています。

(市長)

将来目指していく学校の姿ということで見ていただいたら。急にできるわけでもありませんので。将来的にこのまま子供たちの人数、児童生徒数が減っていくとなると、次の段階として、9年間を通じた義務教育学校みたいなものに変えていく必要も出てくるのかなと思います。そのときには新しい学校を作り直すということも出てくると思いますから、その辺のことについては、いきなり、統合してこんなことができる問題でもないので、将来を見据えて、学校の特徴に合わせた学校づくりということで考えていけたらと思います。

1-3. 2年前に選択制ができて、次の1年生が恋野小学校に入っていないということは聞いています。その次の学年はどんな感じが知りたいのと、残った恋野小学校の児童たちが、高学年になったら下の子が入っていない。体験値がすごく減る。人数が少なくなる。新しい学校に向けて、いろんなことを考えていくのは夢があって楽しい話ですけど、残りの2年間、恋野小学校に残された児童の辛さみたいなのはどういうふうフォローしていただけるのですか。

(教育委員会)

9年度に入学予定のお子様につきましては、現時点ではまだご意向を確認できていません。学校の方で、意向を確認するタイミングがまだ先になりますので、そのタイミングで確認することを考えております。

2年前について、昨年説明した時は、1年前からの学校選択で説明をしてきました。今は、保護者のご意見も聞く中で2年前からとあるんですけども、その議論をする中でも、今触れられたように、恋野小学校については選択によって子供たちが少なくなるということで、恋野小学校の運営自体の心配が出てくるということもありました。そういったところで、1年前がいいのか、2年前まで保護者の希望に沿うことがいいのかどうか話し合いをし、最終的には、学校運営のところも学校とも相談しながら、学校の運営はやっていけるのかなということも2年前となっています。

今お話ありましたように、子供たちのケアも出てきます。新しい学校に行くことへの不安も出てくると思います。また、おっしゃられたように、今おられる学校の子供たちが減っていくことによって、心の変化も出る部分もあると思いますので、そういった状況も、アンケートとか、いろんな形で確認させてもらいながら、ケアに努めていきたいと考えています。

(市長)

低学年が入ってこない件についても、教育委員会には残っている在校生の子供たちのためにしっかりケアをしていきます。

信太小学校も廃校する前は、子供たちの意思確認をして、集団で教育を受ける学校へ行きたいということで、応其小学校とか高野口小学校へ行ってもらっています。その時に6年生の3人だけが、信太小学校を卒業したいとなったので、十分な期間をとって、いろいろ話し合いをしながら、3人が卒業してから廃校にしたという経緯もあります。今回は、そのケースとは違うんですけども、令和10年度に統合するというので、8年、9年については、子供の教育やケアについてしっかりと取り組んでいくようにしますので、ご理解いただきたいと思います。

(教育長)

統合するにあたって、子供たちが先にいきたい。そうすると入学してくる子供がいなくなっていく。その状況の中で学校運営をどうしていくかは、すごく大きな問題と捉えておりました。だからこそ、1年前ということで提案させてもらったんですけども、ご意見を聞かせてもらう中で、2年前までということで決定して、進めているところです。

学校としても教育活動をできるだけ豊かなものにしていきたい。そのためには、異年齢の子がいることでできる活動がありますので、そういったことを取り入れながら取り組んでいるんですけども、いなくなった場合どうしていくかということについては、学校長も、今後しっかり工夫していく必要があると認識しています。私たちの話の中で、そこをどうやっていこうか、まずは子供たちの話をしっかり聞きながら、そこをどうやっていくかについては、しっかり取り組んでいくということで確認しております。前に校長と話したことは、子供たちや保護者の皆さんにとって、望んでいる形はあるから、それを受け入れながらも、やっぱり地域とともにある学校を作っていきたい。このことは確認しております。私たちもそのところはしっかり知恵を出しながら、学校でできること、

教育委員会がフォローしないといけないことが出てきますので、しっかり取り組んでいきたいと思っております。そういったことで、子供たちの声も届けていただけたらありがたいと思います。よろしく願いいたします。

1-4. 令和8年の入学生はいない。その次の子たちで隅田小学校に行きたい。でも親の都合があって送ったりすることできない。本当は隅田小学校に行きたいけど、恋野小学校に行くしかないとか。そういう格差みたいのが出てきたときに、かわいそうと思うんです。出てきてないから何の話もできないですけど、そういうことも起こりますという話です。

2-1. 学校の規模というところは概ね賛成ですけども、どうしても集団の中で苦手な方は出てくるものと思っているんです。それを踏まえて、河根小学校のような、学校区をなくした、誰でも行ける、そういう苦手な方が入れる学校というところで、恋野小学校はいい規模の学校と思うんです。そんな大きくもなく、そういう方が受入れるようなところでできるのかなと思ったんです。それをすることで橋本市の移住される方もまた出てくるのかなと思ったりするんですけども、そういう学校の活用を今後また話し合うというところですけども、そういう案もいいのかと個人的に思ったんです。

やっぱり、こういう社会の中で、集団というのもどうしても大切で、コミュニケーション力は大切やと思うんです。僕も仕事柄、そういう方の支援にあたっているところもありまして、どうしても行けない方っているんです。となるとやっぱり、小学校で学校生活を送って楽しく生活できるのかなとは思うんですけど。そういうのも踏まえて、そういうのを1つ案として考えていただくことは可能でしょうか。

(教育長)

今言っているような学校のこと、小規模特認校制度という制度があります。ただ、小規模特認校制度を採用すると、その地域にいるお子さんたちはその学校へ行くのが大前提になります。そして、他の地域から来る子供さんを受入れることができる。例えば、橋本市内のどこからでも来れますよ、ということをしていかななくてはなりません。

ということで、恋野小学校を考えると、恋野小学校区の子供さんは行くことが前提にあって、他地域から受入れるという形になりますので、今言っていたことを進めていこうと思ったら、その地域の理解を得ながら進めていくことになります。

だから、小さい学校を残して、そこは市内のどこから来てもいいですという形の学校とは違う制度になりますので、今からそれを考えていくことについては、新たにそのことについてどう考えていくかを話し合っていく必要があると思います。そういった議論も以前には話してきた経緯があります。

それは何かというと、信太小学校を残すときに、それをしますかということで話し合った経緯があります。その時に、地域の方がどちらを選択したかは、結果からわかるように、小規模特認校制度は受けずに、最後に閉める形を取ったということになります。なぜ、そうしたかということ、やっぱり

地域からも外へ行きたいというお子さんがいる、また行ってる現実もある中で、小規模特認校制度はなかなか難しいだろうという判断をされたということがありました。

私たちが制度のことはわかった上で、ここまで進めてきているところですけども、今後のこともあるので、ご意見を賜りまして、今後のことに活かしていけたらと思います。

2-2. 先ほど言った学校じゃなくて、きのくに子どもの村学園ってあるじゃないですか。あそこは都道府県関係なく来られていると思うんですけど、市がやっているとじゃなく、個別でやってるんで、ああいうことは、話の中ではそういうところも使えたりもするんですか。学校法人がやってるところで、恋野小学校を使ってもらって、というのができるんでしょうか。

(市長)

理事長が来てくれてまして、いろいろお話をした中で、冗談で恋野小学校におりてきてくれへんって言うたら、断られました。

学園の教育方針の中で、山の中で自然豊かなところで、子供の教育をしてあげたいと。それを望んで、移住者も多いんで、来てくれるということです。先生がはっきり言われるのは、私たちは不登校の子供とか、地域の子供という前提では受け入れるつもりはありませんと。学校は、学園の教育方針に則った子供たちを受け入れますと言われてます。

先ほど出た話でも、橋本市からも河根小学校へ行ってるんですけども、そういうのも少し広域の関係で、子供たちが本当に集団生活が苦手な子は、そこへ行けるように、市としても支援するような形を考えていったらいいのかと思います。今後、そういう問題が出てきたときには、違う対応も将来的に考えていけたらと思いますので、ご理解をお願いします。

2-3. この質問をさせてもらったのも、小学校がなくなるというのが、子供の声が聞こえなくなるということで、地域的にも人が減ってしまうというのが、どうしても基本あるんです。そこへ拍車をかけてしまうようなことになるとは思うんで、地域を守るところでも、やっぱり活用というところでは、話し合っていかなあかんところと思っています。

3-1. 今まで何回か説明を聞かせていただいて、考え方とかはある程度、いろいろ教えていただいたと思うところですけども、この段階にきて、いろんな課題とか、いろんな取り組みをこれからもしないかなければならない。そのために準備委員会を立ち上げてということはわかるんですけども、今、皆さんが捉えている最優先課題は何ですか。

(教育長)

学校再編に取り組んでいかなければならないことを考えたときに、やっぱり集団の中で協働しながら学ぶということを、今のうちにしっかり身につけていく、ということを初めに考えました。それをしていくためには、やっぱり再編が必要。時間がかかるので、本当に少なくなってしまうから話し合いを始めるのではなくて、今の段階からしっかり皆さんと話をしていくこと自身が私が一番大事なことと思っています。

その中で、準備委員会で話し合いを進めていくことになりますが、その中で、教育の中身をどうしていくかということと共有していくことは、私としては大事にしていきたい。

校名どうするとか、校歌どうするとかって、そういった意味での大事さもあるんですけども、子供中心に置いたときの大事さということから、そこを大事にしていきたい。そのように思っています。

3-2. そういう大事なところは理解できてるつもりですけど、その中でいろんな項目があったと思うんです。そこで順位をつけるとしたら、何が一番大事なのか。具体的な例として、こういう課題が今あります。こういう協議をしていきます。その中でもいろいろあると思うんです。この2年間の途中で最後に決まっていけばいいこともあれば、極論で言うと今後の利用については、再編してからでもじっくり考えて良いものを作っていけばいいと思うんです。今、話し合っていかなければならない中で、一番先にしなければならぬって思うのはありますか。

(教育委員会)

留意事項をいくつかお話させていただいたと思うんです。その中で、資料でいうと、12ページにあります「児童の環境変化への対応」、ここは本当に丁寧に、慎重にやらないといけないところと考えています。

準備委員会で進め方についても確認していただくんですけども、教育委員会の内部では準備をすでに開始しております。

例えば、児童のケアで言いますと、教育委員会にいろんな部局があるんですけども、教育支援センターというところがありまして、心理士、専門員も配属しておりますし、不登校とか、そういった対応をしている部署になります。そういった専門部署、または、現場を知っている学校長とか教頭先生にも入っていただいて、児童のケアは、令和8年度早々から、2年前の段階ですけども、例えばアンケートですとか、そういったことを進めていく必要もございます。最もここは協議も早くスタートし、一番慎重に丁寧にやらないといけないところと考えております。

(市長)

一番大切なことは、子供にどれだけ寄り添えるかということだと思うんです。統合した時に、スムーズに子供たちが、隅田小学校の児童の皆さんと違和感ないように持っていく。友達ぐらいになっていけるようにしていくところが非常に大事になると思うんです。その中で交流を増やして、例えば来年は修学旅行、恋野小学校と隅田小学校と一緒にいくとか、運動会一緒にやろうとか、そういうふうな、子供を一番に考えて、令和10年には、両方の在校生が仲良く、スムーズに入っていけるような、学校生活が送れるようにやっていくことがベストと思っています。そこが一番、子供たちにとって大事なことです。私も20人ぐらいの学校から180人ぐらいの学校へ行ったとき、なかなか馴染むのに大変でしたから、そういう経験から考えても、幼稚園で一緒の子供も多いと思いますから、そういうところで、10年には同じ学校の児童ということと、できるだけ不安を取り除けるようにしていくのが、これから一番大事なことと思います。

3-3. そういう答えを期待して質問しているところもあったんです。というのも、最初の説明会ぐらいから、みんなの不安とか、意見が出ていて、そういう回答もしていただいていたと思うんです。いざ来年度というのが、予算とか条例も決まっていってると思うんですけども、本当に子供に寄り添うと、準備期間って、親としては、果たして2年間で本当に足りるのかなって。ここで今決めて話し合っていったらやれることって、この先の1年間ぐらいかなって。先生の声聞いたら、交流をするのに誰がするんですか。恋野小学校の先生任せですか。人数減ってきてる先生がそこまでできるんですかとか。プラスアルファの再編のための人員の考えはどこまで計画に上がってるんですか、すごい具体的な問題が、聞いてたらどうなってるんかなって。ここから話し合うとなったら、いざ何かするのは来年。来年1年間でも、行事とかを先生に聞いたら、学校行事って組むのがすごい大変だと。いろんなことをして欲しい。何とか交流を深めてもらったら、より良くなるんかなって思うんですけども。それは思ってるだけで、実際に進めるとなるとすごい大変と思うんです。人を付けたらとか、先生の数が今のままで、再編のための何かしてって、そうなったら先生も倒れてしまうだろうし、誰ができるんかなってということからも、こういうのやりましたみたいな形だけで、2、3回交流会して、お茶濁して終わりかみたいなのも考えるんです。その辺は本当に優先課題なんじゃないんかなって。今から始めるとなると心配と思う。実はこういうのとこういうのをすすみたい、こういう予算もあって、こういう人も付けてという話が、すでにあってもいいタイミングじゃないかなって。2年間かけてもという不安をすごい感じるというか、そういうふうにしてあげたい、してあげて欲しいという希望です。

(教育長)

そのところは、私たちも大事な部分という認識は十分持っています。すでに学校とは、具体的な話、ここでお約束できるところまではいってないので、触れなかったという部分もあるんです。来年度の人事のことに大きく関わってくることで、県教育委員会が人事配置をすることになっているので、どう要望していくかということは学校とも話をして、その方向でいこうかということで、プラスアルファの人数の体制を組んでいくことは、すでに要望として行っているところです。ただ、今の段階では約束できないことなので話していなかったんですが、プラスしてもらえるとと思っています。それに加えて、市としても、何らかの人員配置もしていくことができたらと思っておるところです。

先ほどの表で、来年度は先生数が1人減りますとあったと思うんです。やっぱり恋野小学校、今の人数で1人減るといのはすごく大きなことだと思っております。恋野小学校、隅田小学校、兼務する形でできるような教員配置なども含めて考えておるところです。これについては、統合前、統合した後にかけて配置してもらえというようなことを思っているところです。

交流につきましても、すでに行っている部分、再編統合があるなしにかかわらずした部分もあります。隅田小学校と恋野小学校でやってた部分もあります。そのところを具体的な形で、年間の行事に組んでいくかということについては、学校がどうしたい、子供の状況がこうやからどうしたいっていうのが一番先になければならないので、学校の要望にしっかり私たちは応えていきたいと思ってるということです。

3-4. 準備委員会の人数の関係ですけれども、学校の先生とも、この前たまたまこの辺のお願い。恋野小学校は2月20日にPTAの総会があるので、そこをお願いしたいとか聞こうと思って考えてたんですけども、どうしても枠組みとか人数とか進め方とかがあるのかなって。全部が全部、準備委員会で考えて、そこで決めてやっていくのかなというイメージです。責任とか、何かしら代表の方が考えていかなければならないのはわかるんですけど、ただ、委員じゃない人の意見が入ったりするのかなとか。準備委員会で決まった、都度都度の話をついバックして、みんなに共有ができるのかなって。任された委員の方はすごい負担だなって。小学校でこの前も言ったんですけども、PTAで3名の方が選ばれた。その方が集約しながらやっていく。それで議論が上手くできるのか。それで本当にみんなが納得できる、今後の姿ができるのかなって。片や知らんところで会議だけ進んで、こんな感じでやりましょうといったのが。せっかくやったら一番いい形にしたほうがいい。恋野小学校もそんな人数いないし、地域の方も少ないから、会議とかその場に来れる方が来たりとかでもいいんじゃないかなって。そういうところで意見交換しながら吸い上げてとかやりながらっていうのを含めて、3名の根拠もわからない。先生に聞いたら、学校の数もあんまり納得いってないとか。何の根拠かというか、全然上手くいってないんじゃないかって思って、その辺どうなんかなっていうところがあります。

(教育委員会)

準備委員会ということで、皆さんに寄っていただいて議論していただくということもあるので、一定の人数にさせていただく必要もあり、こういうことでさせていただいてるんですけども、協議された内容が、委員以外の皆さんに伝えていくことも、すごく大事なことを考えています。

例えば、準備委員会では、今こういうことを提案し、こういうことを協議しています。その中で、こんな話が出てますというようなことは、地域や保護者の皆さんに、例えば「準備委員会便り」みたいなもので、情報をまずはお伝えさせていただくのはすごく大事と考えています。どういう議論が行われてるか皆さんに知っていただいて、その状況も知っていただいた上でご意見をいただきたい。会議は集まっていたら皆さんになるんですけども、皆さん同じベースに立っていただいて、思いを述べていただき、教育委員会が吸い上げていかなければならない部分もあると思うんですけども、会議自体はメンバーでお願いしたいと思っています。意見を述べるにしても、状況がわからないと言にくい。何らかの形で委員に託そうと思っても、状況わからないとできないってということにはならないように、情報を常に発信していきたいと考えています。

(市長)

各区長会に地域担当職員を付けてるんです。区長会でいろんな議論するとき、職員が行って、それについて説明をする。わからなかったら次回に回してもらおうというふうにしてるんで、そういうやり方ができたら。恋野小学校の担当はこの職員、隅田小学校の担当はこの職員ですっていうふうにして、こういう話が出てきてるっていうことを、職員が来て皆さんへの説明と、議論をしていただいて、また話を纏めて、準備委員会で話をしてもらおうっていうふうにして、問題は、恋野小学校の皆さんの声をどれだけ吸い上げていくかということだと思いますので、そういうふうにしてもらえたらと思います。

いろいろわからないところがあったら、教育委員会の職員 1 人付けますので、その中で、議論してもらったらどうですか。できるだけ声を吸い上げられるように。わからないことは、質問をできるように。そういう体制を作りたいと思いますので、よろしくお願いします。

3-4. いろんな負担をかけちゃうので、小学校で意見をもらって、3 名の方には、これからお願いしていく中で、その都度何かしらっていうのは、この前も無理に言ったんですけども、なかなかうんとはすぐにできる話もなかったです。今そういうふうにもおっしゃってくれて、検討してくれたのかなというところもあるので、すごい手間で大変と思うんですけども、どれだけフィードバックできる、どれだけ吸い上げるかってのがかかってくると思います。大変やけど、ぜひとも力を入れていただいて、やっていただけたらと思います。お願いします。

4. 学校再編してどうするかっていうので、下の女の子ですけど、どっち行きたいって聞いたときに、お友達が隅田小学校にいっぱいいるから、お友達がいっぱいいるところに行きたい。でも、親としては、その下の子も恋野小学校に行つて欲しいんです。今言っても仕方ないことかもしれないですけども、統合になると、子供も寂しいけど、親もちょっと寂しい部分がある。うち 5 歳離れてるんで、上の子が 6 年生で下の子が 1 年生。家の前をみんな歩いていったりするんです。お兄ちゃんとお姉ちゃん、その中に私も入れるんやなあって言って、1 年間だけみたいなの。でも恋野小学校なくなっちゃうから、お兄ちゃんと 1 年間だけでも学校一緒に行かれへんなあって言ったら、凄く寂しい顔されて。仕方ないなと年中の子でも思ってるみたいなんです。私もきょうだいみんなで登校してる姿を見たかったけど、下の子が 1 年になるときに、周りの噂でしかないんですけど、やっぱり誰も行かないって聞いたんです。今の年中で、うちの子供ともう 1 人だけ、最後の年の 1 年生で、1 人のところも隅田小学校へ行かすと聞いて。やっぱり仲良い友達がおるところに、親も 1 年間だけ、園児というか、ちっちゃい子の 1 年はおっきい。大人やったら、あつという間に 1 年過ぎるけど、下の子が 1 年となったら、学童は多分行かせると思ってるんです。私 1 人っていう気持ちになる場面もあるかもなあって。統廃合も大人たちの意見があつて、大人たちが子供たちにとって良い環境を作つてあげようとなってるけど、第 1 に子供の気持ちが一番大事と思つてます。子供には学童も、地域との交流になるかもしれないけど、上の子も学童行ったら、隅田小学校と恋野小学校の子が分かれるらしいんです。大人からしたら、子供たちみんなでわいわい仲良くできるやろってなるかもしれんけど、恋野小学校の子たちって家族みたいなんです。学年関係なく、下の名前呼び合つたりとか、そういうのが今はできてても、隅田小学校に行ったら人数が多くなる、今の環境よりかは。大人が思うよりも子供の方が「えっ」てなると思うんです。そういうのも、大人のガチガチな意見で話し合うんじゃなく、子供の意見も尊重して欲しいというのがあります。意見というか、質問でもないんですけど、親としてはきょうだい揃つて、うち仲良いんです。お兄ちゃんって、お兄ちゃんも妹に対して何かぶっきらぼうにするけど、一緒に学校に行きたかつたつていうのも上の子もあるみたい。1 年間だけやけど、親としても、すごい仲良く登校してる姿を見てみたかつたなというのがあつたんで、そういう気持ちの親もいるっていうのを知つておいて欲しいです。

(教育長)

ありがとうございます。家族の関係ってそれぞれが違います。そうやって、家族の中で、そういう議論していただいている、子供のことを聞いていただいている、そんな話を聞かしてもらったことが、私としてはすごくありがたいと思います。そういったところにどう寄り添っていくかというのが、その情報を知っているのと知っていないのでは、全然対応が変わっていきます。そういったことも含めて、周りにおける大人が、子供にとってプラスになるように、どう働きかけしていくかっていうこと。それは自分らもいろいろ進めながらも、絶対心のどこかに持っていなければならないことと思ったので、そのように受けとめさせてもらって、今後進めていくことができたらと思います。

5. 学校再編の委員のときから、ここ3年ほど進めてきたんですけども。最終的には、今言われたように、子供さんの思いと、親御さんの思いと、その辺が一番大事と思うんです。一番懸念するのは、統合するにあたって、小学校はもともと歩いて行ける学校が基本です。それで実際行ってきたと思うんですけど、隅田小学校においても、ほとんどスクールバスになってしまって、恋野からもスクールバスで行くということです。子供の思いは別にして、それを実際考えたとき、恋野橋に信号ができたんで、あの辺は安全と思うんです。それと、恋野の子は自転車に乗ってますので安全と思うんですが、それでも隅田小学校へ行くと、友達ができて遊びに行くという機会も増えてきます。そのときに、一番懸念されるのは隅田中学校のところ、踏切、今まであまり渡ったことのない国道がありますので、そこが整備されていない。ものすごい懸念しております。5年生、6年生になったら遊びに行くという思いがあって、学校へ行くにはマイクロバスで送迎ですけども。その辺、ちょっとずつでも整備お願いしたいと思います。

それと、恋野小学校は、昔、彦谷分校があったんです。年に一度、修学旅行だけ一緒に行ったんです。修学旅行は勉強ではなく、お互いにすぐ仲良くなるんです。彦谷から生徒が5人ぐらい来られて、男2人でしたけども仲良くなれたという思い出があって、最初にそういう思いがあったんで、もしかしたら遠足とか、そういうところから始めていただきたいという思いがあります。

(市長)

県道整備ですけども、現在進めてもらっています。一番難しいのは、踏切を拡幅するところが、JRの了解をもらわないといけないので、拡幅、踏切の機器を動かすだけでも相当のお金がかかったり、工事をJRに任せないといけないという問題もあって、今、県でもどういうふうな方向性で広げていくか協議をしてもらっています。隅田中学校までの狭いところあります。恋野橋手前のカーブのところも危ないという思いもあって、これも県と協議させてもらいながら、できるだけハード面の整備については進めていけたらと、県としっかり話をしておきます。